



『関係の変化と回復の黄金律』

聖書:ガラテヤ人への手紙2章19-20節/ 暗唱聖句:マタイの福音書7章12節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

「しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。20もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているのち、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」(ガラテヤ人への手紙2章19-20節)・「ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。」(マタイの福音書7章12節)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族の皆さん！続く緊急事態の中、一週間のうちにもお変わりなく、みんなお元気でしたか。本日はコロナの時代の中であっても我らの大切な関係の新たな変化と関係の回復のために、どうすれば良いのか共に主の御言葉を通して学んで行きたいと願います。

聖書には様々な関係によるかっとうの例が数多く出ているし、増してどうやって関係が回復されていくのかその方法までちゃんと書かれています。ウィリアム・ヒルという聖書学者は新約聖書の中、黙示録をのぞいた7546節の中1906節がまさに人間関係による葛藤をみついているのだと主張した事があります。つまり新約聖書の40%が様々な人間関係について語っているということです。

みなさんは最近どんな良い変化を期待していますか。ある人との関係の回復、家の家族との関係の回復、教会家族との関係の回復などはどこからはじまると思いますか。

結論的な聖書の御教えをまとめて言いますと、関係の新たな変化と回復は、まず自分自身から変わらなければならないことを教えて下さっています。

夫婦や家族、あるいは様々な人間関係になかなか関係が改善されず、問題や葛藤のあるままで仕方なく我慢し続けながら関係を維持して悩んでいる場合の多くのケースがいます。

たとえ、自分は自身のスタイルで、自分の愛し方で、必死に頑張って夫を、妻を、子どもたちを、教会家族を愛し続けて来たのに、なかなかその愛が伝わらず、関係も変わらず良くなりません！なぜでしょうか。それは相手が願い、望んでいる姿や行いの愛し方と関係作りではなく、自分の正しいと思っているやり方、自身がベストだと思い込んでいるスタイルが変わらないゆえの結果であることが分かります。つまり、自身は変わろうとせずに、相手だけが自身の望んでいる通り、その期待通りに変わることをばかり期待していたためではないでしょうか。

例え) いつも妻に問題があると思っていたある主人がいました。主人にとっていつもの不満は妻と会話がうまく通じない、続かないということで、ある日、その主人はふっと、もしかして妻の耳に異常があるのではないかと思い、一度試して見ます。ある日、部屋には二人だけいました。妻はテレビを夢中にずっと見ています。すると主人はひそひそ声で“おい～あなた！僕の声が聞こえるかい”と聞きます。しかし妻の何の反応もしません。もっと近づいて行って次は2-3回も“ほら～あなた。僕の声が本当に聞こえないのかよ”と聞きます。それでも妻が答えません。最後は妻の背中まで近づいて来て妻の耳に大声で叫びます。“あなたね！本当に私の声が聞こえないの。困ったね”と言われると、ようやくふり向いた妻がとても険しい顔で、大声で叫びながら答えます。“ちゃんと聞こえてるわって！どうして何回も言わせるのよ。何回答えればいいのよ。もう！あなたの耳！本当におかしくないか心配だわ。”と言われたのです。

夫と妻、二人の中で実はどちらの耳がおかしかったのでしょうか。どちらが問題何でしょうか。そうなんです！夫の耳がおかしくなっていて、ずっと妻が言われる声が聞こえてなかったのに、その夫はずっと妻の耳が問題ではないのかばかり思い込んで疑っていたわけです。

<1. まず自分の変化と回復が始まりである>

愛する信仰の家族のみなさん！私達も実は、いつも自分より相手が問題だと考え込んでいる時がよくありませんか。自

分より相手のことばかり変わることを願う時が多くありませんか。私自身も同じです！私の妻が、私の子供たちがこういうふうになってほしい、私たちの教会があのように変わってほしい、周りがこう変わってほしいと、たえず思い込んでいる時がよくあります。きっとみなさんの中でも自分の家庭が、自分の子供が、教会が、周りの人々がこのように変わってほしいと願った方がいると思います。しかし、自分より相手ばかり向いている我らに、聖書では、他人ではなく、あなた自身自身はまず変わらなければならないのだと教えて下さっています。自分自身は変わらないまま、自分自身は変えられようと努力しないで、自分の回りや他人の変化を期待し祈ることは決して神様が聖書を通して教え、望んでおられる姿ではないことを大切に教えて下さっています。

愛するみなさん！聖書が教えて下さる正しいの信仰の姿と他の占いなどとの違いは何だと思いませんか。占いは自分のお金を出して、神のこころを自身が願っている通り、期待している通り、動かし自分が祝福されたがります。しかし、聖書はこのような人を‘クリスチャン、つまり、信仰ある者’だと言いません。聖書が教えて下さっている真の信仰の姿は何ですか。それは簡単でとってもシンプルです！それは聖書で書かれ、教えられている通り、神様が望んでおられる通りに従って自分を変えることです！神の御心通りに従って、自分を変えて行く事こそ、真の信仰生活の姿ではないでしょうか。神の御前で正しいの信仰の姿は神様の願われている通りに自分が従って変わっていくために、絶えず主に自分を明け渡し、委ねて行きます。

マタイの福音書 7章 12節にイエスキリストは、人の関係の変化と回復のためには、必須不可欠な大切な御言葉であり、この箇所を黄金律(Golden Rule)だと言われています。「ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。(マタイ7：12)」

ここで律法と預言者だということは旧約全体を意味します。新約聖書を読む時、律法と預言者という単語が出て来ると‘あ、これは旧約聖書の御言葉を言っている言葉なんだ’と理解してもおかしくはないと思います。

ですから今日の本文の御言葉つまり、何事でも自分にしてもらいたい(変化と回復)ことがあれば、あなた自身が相手の人にそのようにしてあげる(自分の変化と回復)こと！これが旧約全体をまとめる関係を守る、全ての関係を回復させる大原則だと教えて下さっています。

短いこの主の御言葉には、何よりもすべての関係が守られ、回復されるために、他の人にしてもらおう変化を期待し、願う前に、まず自分が変わって願いたい事、期待している事を他人にそのようにすることを教えて下さっているのです。まとめると、他人の変化を期待する前に、自分が自らの態度、姿勢、行いの変化が先であり大切だという意味ではないでしょうか。全ての変化と関係の回復への聖書の原則と神の知恵を一言で言うと“他人と関係の新たな変化と回復は、他人によるのではなく、自分自身の変化による、自分にその鍵があるよ。”という内容であります。

最近みなさんは、夫に、妻に、子どもに、親に、牧場の家族に、牧師に、牧者に、教会家族にどうしてもらいたいですか。そのような関係の回復と新たな変化を願うなら、自分がまずそのように変わって行うことが目玉であり、核心であることを覚えて行きましょう。

<2. どのように自分の変化と回復が出来るのか。>

今日の本文、ガラテヤ人への手紙2章19-20節では、「私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。20もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」

そしたら、我ら自分自身がどうすれば、神様の願われる通に自身を変えることが出来るでしょうか。

ガラテヤ書の御言葉を一言でまとめると、「イエスキリストと一つになる」ことです。

イエスキリストと一つになるということは、イエスキリストを自分の心に受け入れ信じることです。今、みなさんはイエスキリストをご自身のまことの救い主として受け入れていますか。イエス様を信じることは、まず、イエスキリストを自分の救い主(自分の全ての罪を赦し、新しくきよめ、神の永遠の命を与えて救われるお方として)受け入れることです。

そして、イエスキリストを受け入れ信じるということは自分が死ぬことだと教えて下さっています。

「19私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。」

イエス様は我々の全ての罪赦しのために、すべての罪を背負い、十字架にかかって死んで下さったように、我々も十字架に自分自身を死なせることです！誤解しないで下さい。ここで死ぬことというのは実際死ぬとか、自殺をするみたいな事では決してありません！

ここで、自分を十字架で死なせるという意味は、自分を苦しめた古い自分の姿と生き方、古い価値観、自分の淫乱な思い、変わろうともしない頑なな自分の心、固執とくせ、絶え続く自分の欲張り、罪の欲望と習慣などを完全に殺す、捨てるという意味であります。そして、受け入れ、内住されておられるイエスキリストに明け渡し、委ねれば委ねるほど、自分の中にある罪のくせ、縛り、罪の奴隷と鎖の痛みから解放され、自由になれます！キリストイエスにあって古いものが過ぎ去って新しい自分、主が望み喜ばれる新しい生き方に変えられて行けます。

「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」（コリント人への手紙第2章5節17節）

使徒パウロはこの内容についてこう教えて下さっています。ローマ人への手紙6章3-8節です。

「3それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。4私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。5私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。6私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。7死んだ者は、罪から解放されているのです。8私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることにもなる、と私たちは信じています。」

この御言葉の意味は何ですか。結局のところ、人が古い自分、罪の中の自分を変えられるためには、ただの自分の決断、努力によるのではなく、イエス・キリストを受け入れ、イエスキリストの命と力によって自分を変えられ、キリストにあって新しく生けることになることを明らかに教えて下さっています。

残念ながら、わたくし自身を見ても、他の人々を見ても、人はなかなか自分を変えようとしません。

しかし、イエスキリストを受け入れ、信じることによって、これからは自分のうちに内主されておられる聖霊の神が絶えずつづく戻ろうとする以前の古い自分！罪の自我本能には死なせ、これから主なるキリストが死からよみがえられたように、我らの自分の人生も変えさせ、新しい人生の生き方に導いてくださると約束されているのです。

以前、知り合いの韓国で脳神経学科の博士のクリスチャンの執事さんにととても面白い話を聞いたことがあります。人間の脳には、およそ6兆（ちょう）～100兆の細胞があると言われていています。この脳細胞は短ければ2-3時間内に死ぬそうです。ところがこの脳の細胞が死ぬと、かならず新しい細胞が造られます。しかしこの脳の細胞はストレスを受けると反乱を起こし、死ぬべき細胞が死ななければ、大変な問題を起こすようになる。その死ぬべき細胞が生き残るとかえって悪影響を与えますが、その細胞を医学的に一般的によく言われているのが、癌細胞だと言われました。

今日の御言葉の内容をととても分かりやすくさせてくれるたとえ話ではありませんか。信仰の原則も同じです。主において死ななければならぬ古い、かたくなな自分自身が生き残ろうとすると、よりキリストにある新しく豊かな人生として歩める事を妨げられるようになる事を覚えておきたいと思えます。結局、様々な問題の解決は他人とか、周りの環境でもなく、キリストイエスにあってどれほど古い自分が変わって行くのかが、関係を回復させる核心であります！

例)ローマのコンスタンティン皇帝の母であったヘレナという人はイエスキリストを信じてから、イエス様がポンテオ・ピラトの前に立たされた時の階段の部分だけをわざわざ取ってローマにまで運んで来たそうです。そしてその後、人々はこの階段にひざで上がると、まことの悔い改め、罪の赦しを頂けるといふ伝説が広がっていたようです。長らく歳月が

流れ、ドイツからある修道士の一人がその噂を信じ込んで、ピラトの階段のところまで来て、自分の全ての罪を神に赦して頂き自分の人生を変えようと願い求め、涙を流しながら、ひざでその階段を一つずつ上りました。しかしながら、心にはまことの喜びが湧いて来ません。その瞬間、彼の祈りの中、神は彼に御言葉を思い出させて下さいました。

ローマ人への手紙 1 章 17 節の御言葉でした。「義人は信仰によって生きる」と御言葉でした。それで彼は、自分がひざまずいたその階段から立ち上がって歩いて降りて来たそうです。なぜなら、自分が罪から救われ、回復され、人生が変わることはこのような膝で階段上りのような人の努力や苦勞の行いによってではなく、ただイエスキリストを信じる信仰によって救われ、変わるのだ！という御言葉の約束の基づいた真理を悟られたからです。その後から、彼は神に大いに用いられ、ヨーロッパや全世界にただキリスト、ただ御言葉によって、ただキリストの信仰と恵みによって誰でも、救われ、人生が変わるのを知らせる真の宗教改革運動が起されたのです。彼の名は、あの有名なマルティン・ルター先生でした。

みなさん！結局、神の救いはまずマルティン・ルター先生の自分の変化から始まりました！そのマルティン・ルターは日々このような信仰の告白を祈り中で神様にささげたそうです。“主よ。わたくしは毎日キリストの御名によって洗礼を受けています！”この話の意味は“私は毎日キリストイエスにあつて死にます！”と言う意味でした。

愛する皆さん！洗礼（バプテスマ）の意味は何ですか。何方がローマ人への手紙 6 章 8 - 11 節にこう書かれています。「8 私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることにもなる、と私たちは信じています。

9 私たちは知っています。キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはありません。死はもはやキリストを支配しないのです。10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。11 同じように、あなたがたも、キリスト・イエスにあつて自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対しては生きている者だと、認めなさい。」

イエスキリストが全ての罪に対して十字架で死んで下さったように、イエスキリストを主として受け入れた者もイエスキリストとともに死んで信じる前の古い自分を捨てる！このことがなければ、また必ず、過去の罪の中、いやがり、苦しませた古い自分の姿にまた戻り、新しく変わることは決して出来なくなるのではないのでしょうか。みなさんはいかがでしょうか。高慢で人殺しだったサウロが変わって謙遜な人とたましいを救う福音の伝道者使徒パウロ一人が変わったことは個人の人生だけではなく、周りとの関係や世界に素晴らしい変化をもたらすように用いられました。その使徒パウロもこのように告白しました。第一コリント人への手紙 15 章 31 節「わたしは日々死んでいるのです！」と。

愛する信仰の家族の皆さん！イエスキリストを信じている我々は主の者です。主の者は、キリストイエスにあつて自分は死んでただキリストに従う者です！自分の変化は、すべての関係が回復させ、周りを明るく変えられるようなものです。皆さんもよくご存知のようにまだ私の子供たち 5 人がいますが、息子が高校生の時、妻の話によると、私は子供たちに相当怒りっぽく厳しく話してたそうです。妻からよく“あなたは子供たちに話す時、かなり厳しすぎるのではないの”と何度も言われたことがあります。なぜそうだったのか正直に考えて見たら、父親である私の願う通り、僕の考え通り、子供たちが聞いて変わってくれないことになかなかいらしたのではないかと思われました。

その話を聞いて、ある日早天祈り会の時に、子どもたちのために、子育ての知恵を求めながら祈ると、主はわたしの心と思いがこう変わるように悟らせ、導いてくださいます。‘鄭師が否定しても、子どもたちはみんな誰よりも親であるあなたに一番似ているのではないか。まさに、実は私にそっくり似ているのに、どうして私がそんなに子どもたちに無理やりに変えようとしたのか。もし私に一番似ている子供たちが足りないのであれば、それは父であるあなたが足りないからであり、あなたが望んでいるように子どもたちが変わってないなら、実はあなたがそのように一番変わってないからではないのか’という真実にめざめさせて下さり、その日以来、主が子供ではなく、今日もわたくしを変えて下さい！と祈ることになっております。‘だれかに変る事を望む前に、まず、あなた自身を変えなさい。私が変われば子どもたちが、すべても変わります’と。

信仰の家族のみなさんは最近いかがでしたか。もし今も自分より他の人の変化を求めているではありませんか。それは結局、関係が絶え切れない言い争いや葛藤や不満だけを残してしまうことになります。一時的には回復されたよう

に見えるかもしれませんが、自分が変わらないと真の関係の回復と変化はできないのです。

自分自身が変わると家庭が変わります！自分自身が変われば牧場が、教会が変わります！自分自身が変われば真の回復が与えられます。最後にご一緒に、ヨハネの福音書12章24節を読んでメッセージを閉じたいと願います。

「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒(つぶ)の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。

しかし、もし死ぬなら、豊かな実を結びます。」アーメン！

今日主が教えてくださったこの御言葉が我々の今日、また今週、これからも忘れられない一番大事な祈りの課題になりますように心からお祈り申し上げます。志を立てさせ、もう一度決断しましょう！今週、今月今年も、キリストイエスにあって私から始め、みなさんお一人お一人自分の変化を通して、愛するすべての関係が守られ、回復され、さらに新たに換えられて行く全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となりますように、変わって行く皆様一人一人が神の恵みと祝福の通路として大いに用いられる増すように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン！

<祈り課題>

1. 神様の御前で自分の変えられるべき部分はどこなのか気づかされるように祈りましょう。
(自分の弱さ、自分の間違ったところ、新たにされる場所など)
2. 今誰か(夫婦、家族、教会の家族、子ども、親など)にしてもらいたいことは何ですか。そうしてもらうためにまず、自分は何をやってあげるべきでしょうか。
3. 今神様に示されている回復されるべき関係はだれとの関係であるか考えながら祈りましょう。
4. クリスチャンプレイズに属している一人一人がキリストにあってまず自分が変り、家庭が変り、教会が変り、周りが変って行く事を期待し、信じて、実際行い、取り組んで行く事が出来るように祈りましょう。

